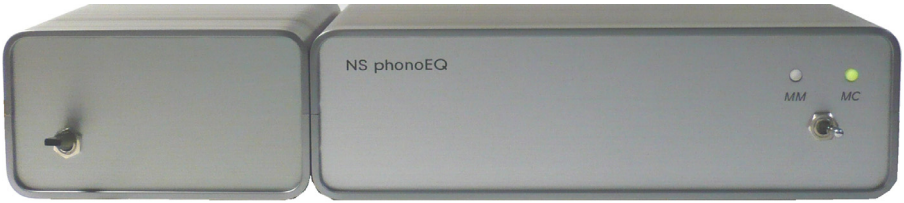
フォノイコライザーアンプ

NS phonoEQ

取扱説明書



接続について

フォノアンプ本体背面のDC電源端子と、電源ユニット背面のDC電源端子を、本機に付属のDC接続ケーブルで接続します。

ＡＣ電源コードのプラグは、コールド側（マイナス側）に白色マーカーで印をつけてあります。プラグのコールド側を電源コンセントのコールド側に合わせて差し込むと、ほとんどの場合にハムノイズを低く抑えることができます。もしハムノイズが大きい場合には、逆の接続を試してください。

レコードプレーヤーの出力は、フォノアンプ本体背面の「Phono」入力端子に接続します。

フォノアンプの出力は「Output」端子から出ています。プリアンプ等のラインレベル入力端子に接続して使用してください。

レコードプレーヤーのアース線は、フォノアンプ本体背面のアース端子に接続してください。オーディオ機器相互の相性や設置状況によっては、アース線を接続しないほうが良い場合もあります。プリアンプのアース端子とフォノアンプ本体のアース端子を接続するかどうかについても同じです。

１つの方針として、実際に音楽を鳴らしたときにハムノイズが気になった場合にのみ、アース線を接続してハムノイズが軽減されるかどうか試してみる、というのが良いかもしれません。

MM/MCの切換えについて

レコードプレーヤーに取り付けたカートリッジのタイプに応じて、フォノアンプ前面パネルの「MM/MC」スイッチを切り換えてください。

このスイッチを操作すると、内部のリレースイッチでフォノアンプの増幅度が切り換わります。切換えのときにポップノイズが発生しますので、オーディオシステムの音量を絞った状態で設定してください。

お手持ちのMC昇圧トランスを使用する場合は、フォノアンプをMMモードに設定してご利用ください。

MM/MCのどちらのモードでも入力インピーダンスは47KΩですが、MCモードでもアンプの入力部分がオペアンプIC（入力インピーダンスが非常に高い）であるため、低インピーダンスのMCカートリッジを接続してもインピーダンスの不整合などの問題はありません。

保証について

この製品の保証期間は　　年　　月　　日までの３年間です。製品の動作に不具合がある場合は、不具合の内容をメール、FAX、電話などでNS工房にご連絡ください。

もし製品の故障と判断される場合には、製品をNS工房まで宅配便などで返送していただき、NS工房で点検・修理を行ないます。恐れ入りますが、返送時の送料はお客様のご負担とさせていただきます。

保証期間内の故障で、故障の原因がお客様の責任でない場合には、無料で修理いたします。

保証期間外の故障の場合には、点検・修理に関する手数料と交換パーツ代をお客様にご負担いただきます。

主な仕様

RIAA偏差： 20Hz～20KHz（－2dB、出力1V時）
利得： MM 40dB、MC 58dB（1KHz、1V）
歪率： MM 0.005%、MC 0.05%（1KHz、1V）
S/N比： MM 86dB、MC 64dB
サイズ： 本体 W17 x D12 x H5cm / 電源 W9 x D12 x H5cm